

飯能西中だより



天覧山 11月号

飯能市立飯能西中学校
学校だより
令和6年度 第8-1号
令和6年11月7日発行

<校訓> 誠・和・進 <学校教育目標> 自立・共生

<目指す学校像> 心のよりどころとなる世界に誇れる学校

一人ひとりが大切にされていることが実感でき家に帰った時に元気よくたいていと言え学校でありたい
飯能西中学校スクールアイデンティティー

これからの制服の在り方について

校長 中村 公一

暑さが和らいで過ごしやすい季節を迎えたのもほんの束の間で、もうすでに朝夕は肌寒く感じられるようになってきています。もう11月なので当然のことではあるのですが、私たちが子どもだった頃と比べてみると、近年では春や秋などの過ごしやすい時期が短くなり、夏の暑い時期がずいぶん長くなっているのではないのでしょうか。地球温暖化などによる気候変動の影響がそこにも現れているよう思います。このような気候変動の影響は学校の教育活動にも及んでいます。学校行事を例に取ってみると、これまで9月の中旬に行っていた体育祭は、厳しい暑さのため原則運動禁止となる日が多いため、当日の開催が危ぶまれるだけでなく練習も満足に出来ないことから、今年から体育祭の開催日を10月に変更せざるを得ませんでした。また、生徒の服装についても、近年のような厳しい暑さの中で過ごすことを考えれば、これまできまりとしていた夏の標準服スタイルが現実的ではないことがわかっています。このようなことから夏の期間は、制服でなくジャージや体育着等で登校してよいことになっているわけですが、修学旅行や校外学習ではジャージや体育着でよいというわけにはいかないでしょう。しかし現行の女子の標準服では白いシャツとベストを着用することとなっており、仮にベストの着用をしなくてもよいとしたとしても、下着などが透けてしまうことから、シャツの下に体育着を着るか、シャツの上にベストを着るかどちらかにしなければならぬのが現状です。いずれにしても、夏服の在り方について対策が必要です。ところで制服については他にも課題があります。最近の物価の高騰にともない制服の価格も年々上がる傾向にあり、保護者の負担を抑えるためには素材やスタイルから考え直す必要があります。また制服のタイプをこれまでのような男女別標準服という考え方を改め、ジェンダーニュートラルな視点から考えたりする必要もあるでしょう。いずれにしても今後の制服の在り方については学校の職員だけでなく、保護者や生徒の考え方も十分に取り入れてみんなで慎重に考えていく必要があります。このようなことから、本校では制服等についての今後の在り方を検討する委員会を設置することといたしました。その準備として生徒や保護者の皆さんを対象にした「制服に対する意識調査」を行います。この調査は、今後の方針を決める上での予備調査と言えるものなので、その結果をもって制服の改定を決定するものではありません。制服に対する皆さんの率直なご意見や感想などを伺い、それをもとにしてこれから設置する検討委員会の組織や構成員を決定していく予定です。尚、調査の詳細については [tetoru](#) で配信いたしましたのでそちらをご覧ください。

制服の在り方については、様々な業界の方にお話を伺ったり、先行事例を調査するなどして個人的にかなりの時間をかけて調査を進めて参りました。制服をファストファッションのメーカーの安価なものに切り替えたり制服そのものを廃止した例についてもその後の状況を調べて参りましたが、どのケースも一長一短で様々な課題があるようです。最近では制服のレンタルやサブスクといったサービスも始まっており、これからの制服の在り方を検討する上では、生徒、保護者、先生の目線だけでなく多様な見方や考え方を取り入れていく姿勢も重要です。これから設置する検討委員会の目的はまさにそこにあるわけです。今後、制服改定の動きが出た場合にはそのプロセスをみんなで共有し「自慢の制服」といえるようなものにしていきたいものです。

先生も生徒もよく頑張っています ～学力向上の視点でも～

今回のPTA広報誌でも取り上げていただきましたが、本校では生徒がいつでもどこでも学びに向かうことが出来るよう、スマイルネクストとStudy Planets（スタディープラネッツ：スタプラ）という二つのICT教材を導入して基礎基本の定着を図るとともに、10月号でお知らせしたように、社会的構成主義という世界標準的な教育観に基づいた学び合いのスタイルを取り入れることを通して学力の向上を図っています。経験の浅い若い教員も多いのですが、みなひた向きに生徒に寄り添った指導を続けていますし、生徒も純朴で素直に耳を傾けることの出来る生徒が多く、保護者の皆様の支えもあり、着実に力を伸ばしていると言っているのではないのでしょうか。例えば、毎年行われている埼玉県学力・学習状況調査の結果を見てみると、前年よりも学力を伸ばした生徒の割合はほとんどの学年、教科で県平均や市平均を上回るようになってきていますし、今年の全国学力・学習状況調査においては特に数学において、全国や県の平均を大きく上回る結果を出しています。来年以降も同じような成果が認められるまでは断定は出来ませんが、変化の兆しは見え始めていると考えてよいのではないのでしょうか。これまでも挨拶や掃除、体育祭や合唱祭での取り組みなど、西中生のよいところについては学校だよりでもお伝えして来ましたが、学力面においても同様に自信を持ってよいとお伝えできるようになってきています。しかし一方において、学校外での生活について地域の方からお叱りやご心配をいただくことがあります。先月も自転車の乗り方について指導したばかりです。しかし残念なのはこういった指導が必要な生徒はごく一部なのですが、外から見ると西中生全員に見えてしまうということです。当然のことながら学校においても日常生活の指導を行っているところですが、学校外において教育活動以外のことについて指導するのは物理的にも立場的にも大変難しいと言わなければなりません。したがってこのような場合こそ、家庭や地域のお力をいただき、必要に応じて警察（学校警察連絡協議会という組織があります）などとも連携していく必要があります。これらのことをご理解いただき、一生懸命に努力して力を伸ばしている西中生のために、是非とも皆様のお力をいただきたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

校長講話を思い出してください

先日の学校朝会でお話しした事を覚えているでしょうか。これまでに私が学校朝会でお話ししてきたことはいろいろあるのですが、2～3年前にお話しした事については皆さんにとって初めてのこともあるでしょうから、今回はいくつかのお話をまとめてその要点をお話ししました。スライドの一部を右に載せたので是非思い出してみてください。「だれでも毎日2～3時間ずつの練習を10年間続けていけばプロレベルになれる可能性がある」ということや「時間はすべての人に平等に与えられているものの、蓄えることができないし、与えられたという感覚がないので無駄にしていることが多い」ということ、そして「たった千分の一だけでも毎日成長し続けるよう努力していけば、一年後には全く努力しなかった人に比べて1.4倍成長できている」というお話でした。これらが皆さん自身にとってどのような意味を持っているかもう一度よく考えてみてください。ここで聞き流さずに素直に考えてみることも0.1%の成長といえます。実はそのようにして人との差は開いていくものなのです。

生徒の皆さんへ

今日のキーワード

10000時間の法則
1日は86400秒
秒速300000km

校長講話から

少しでも成長をしよう

毎日、0.1%成長するだけでも
 365日続ければ
1.44倍の成長になります
 毎日、0.1%手を抜くだけで
 365日続ければ
0.69倍の成長で終わってしまいます

校長講話から

○ 11月の主な行事予定 ○

11月5日（火）教育相談期間（18日まで）	21日（木）テスト前諸活動停止期間開始
6日（水）45分授業 専門委員会	22日（金）西部南地区音楽会
7日（木）仲良し音楽会	26日（火）期末テスト 給食なし
11日（月）C期時間割開始	27日（水）期末テスト
14日（木）県民の日	1年生職場体験事前訪問
19日（火）4時間授業 45分授業	28日（木）開校記念日
	29日（金）3年生育児体験